

## 成田市教育委員会会議定例会会議録【会議概要】

平成28年3月成田市教育委員会会議定例会

期日 平成28年3月24日(木) 開会：午前9時30分 閉会：午前11時25分

会場 成田市役所5階503会議室

### 出席委員

教育長	関川 義雄	教育長職務代理者	小川 新太郎
委員	高木 久美子	委員	福田 理絵
委員	佐藤 勲		

### 出席職員

教育総務部長	伊藤 和信	生涯学習部長	藤崎 祐司
教育総務課長	鬼澤 正春	学校施設課長	篠塚 正人
学務課長	江邨 一男	教育指導課長	大竹 誠司
学校給食センター所長	後藤 文郎	生涯学習課長	秋山 雅和
生涯スポーツ課長	大矢 知良	公民館長	小川 浩
図書館長	須賀澤 賢治	教育総務課課長補佐(書記)	鈴木 浩和

傍聴人：0人

### 【会議概要】

#### 1. 教育長開会宣言

#### 2. 教育長報告

#### 主催事業等

##### ○3月4日 教育委員会会議臨時会について

平成27年度末における教職員の人事異動について、異動原案をお示しし、委員の皆様のご承認をいただくことができた。詳細については、臨時会議の中で述べさせていただいたので、本報告の中では省略させていただきたい。

##### ○3月12日 生涯大学院卒業式について

平成27年度成田市生涯大学院の卒業式並びに修了式を挙行了。卒業生は第36期生であり、84名。修了生は、第37期生が81名、第38期生が60名である。それぞれ、年度始めと比べると、若干人数が減っているが、大変な頑張りだと思う。3カ年皆勤者は9名。1カ年皆勤者は、36期生が16名、37期生が14名そして38期生が9名おられたのだから素晴らしい。年齢を重ねても旺盛な向学心、探究心そして学習を通して身につけた実践力等々、今後を豊かに生きる大切な力だと感じた。

○3月14日～15日 校長目標申告について

年度当初に立てた各校長の目標に対し、どれだけの成果があったのか、どんな課題が生まれたのか、一人ひとりの校長と面接して話を聞いた。今年度はどの学校も特色ある教育を推進し、特に学力の向上に力を注いだ結果、市独自の学力状況調査でも、あきらかに昨年度を上回る一定の成果が得られている。また、学校によっては学級経営につまずき、教育委員会から指導主事を頻繁に派遣しなければならない状況に陥ったところもあったが、全体としては落ち着いた経営ができた。今後の課題が明確な学校は、次年度当初の取組も素早く開始できる。校長の強いリーダーシップに期待したい。

○3月16日 ふれあいルーム修了の会について

今年度の修了生は22名。全員が修了の会に参加できたわけではないが、式場の外には、かつてここに通っていた先輩たちが何人か来ていて、修了を祝ってくれていた。いつも感心するのは、指導員さんたちがそれぞれ担当した生徒たちに思いを込めた修了証書を渡すことである。思いを感じ、自分自身を奮い立たせて頑張る子もいる。ルームを出てからも葛藤が続くと思うが、是非、自分自身の持ち味を生かせる人間として成長して行ってほしい。

○3月11日～18日 成田市立小学校・中学校卒業式について

全委員さんにお願ひし、それぞれ分担して各小中学校の卒業式に参加していただいたので、この後、簡単に感想をお聞きしたい。私は、成田中、豊住小、成田小の各校の卒業式に参加した。それぞれ特色ある卒業式だったし、学校における最大の儀式的行事だということがひしひしと伝わってくる良い式だった。成田中では特に合唱の素晴らしさが、豊住小では小規模らしいほのぼのとした温かさが、成田小では、全てに指導が行き届いていると思われる質の高さが印象的だった。特にプロの演奏家と思われるバイオリン、ビオラ、チェロの弦楽三重奏が舞台の袖で、子どもたちの入退場や卒業証書授与の場面で実際に演奏していただいているのには驚き、そして感動した。

○2月14日 青少年交流綱引き大会について

当日、体調不良のため、本大会に出席することはできなかったが、今年も、各小学校間で熱

戦が展開されたと伺っている。ただ、毎年この時期にインフルエンザも流行し、残念ながら大会参加がかなわない児童もいる。今年もいくつかのチームが参加できなかったようだ。決勝は公津小学校と下総みどり学園が対戦し、公津小学校が勝ち、3連覇を果たしたということだ。必ずしも大規模校が勝てるわけではないというのが、この大会の面白いところで、子ども達の励みになるものだと思った。青少年相談員連絡協議会など、本大会開催のためご尽力をいただいた各位に感謝したい。

## 市議会

○2月19日～3月17日 平成28年3月定例会について

3月議会は、市長の施政方針演説とこれに関連する会派代表質問、新年度予算に関する予算特別委員会が開催されるなど、短期間で重要な審議が行われる。教育委員会関係では、10人の議員から代表質問、一般質問等を受けた。

○3月 2日 教育民生常任委員会

常任委員会では教育委員会関係の議案はなかったが、「成田市教育大綱の素案について」、「大栄地区小中一貫教育校校名募集について」、「旧豊住中学校の跡地整備に伴う成田市豊住運動施設の閉鎖について」の3点について報告させていただいた。若干の質問はあったが、特に大きな課題はなく、了承していただいた。

○3月 7日～9日 予算特別委員会について

あらかじめたくさんの事前通告をいただいていた、作成した資料も多く、職員は事前準備が大変だったと思う。準備がきちんとできていたこともあり、たくさん出された質問にも的確に答えられたと思っている。

## その他

○2月23日 多古町PTA連絡協議会による下総みどり学園の視察について

下総みどり学園に多古町教育委員会と各小中学校の校長先生方、PTA会長さん等、総計30名を超える方々の視察訪問を受けた。統合校舎もそうだが、一番のねらいは小中一貫教育について、どのような教育が実際に展開されているのか、それが一番関心のある事柄だったようである。

○3月 5日 千葉県立成田西陵高等学校卒業証書授与式について

卒業生は162名。内、3カ年皆勤は20名。昨年と同様だったが、卒業式に臨む生徒の真剣さがまず感動ものである。それぞれの学科が1学級であり、3年間担任が変わらないということで担任の生徒を思う気持ち、生徒の担任に対する感謝の気持ちが強く感じられる卒業式だった。生徒の多くは就職だが、50名近い生徒が大学や短大、専門学校等に進学する。卒業す

れば社会人としての第一歩を踏み出さなくてはならないというところで、中学生とはまた違った一面が見られ、教師と生徒とのつながりはより一層強い信頼関係で結ばれているようだ。こういう姿を見ていると、自分も高校教師をやってみたかったと思う。

○3月10日 一般財団法人印旛教育会館平成27年度第2回評議員会について

平成28年度の印旛教育会館の事業計画、収支予算の件を議題として審議した。一般財団法人となった印旛教育会館だが、現在の場所に教育会館が建設されてから30年ほど経過し、施設の老朽化が目立ち始め、トイレの洋式化や不具合の箇所等、施設の改修を実施しなければならない状況になっている。そのため施設維持管理費が多くなってきている。また、将来の大規模改修に向けて積み立ても行っている。基本的には現職の印旛地区教職員の拠出金によって運営している印旛教育会館なので教職員や退職教職員の利用を第一としているが、部屋が空いているときは民間事業者であっても有料で使用していただいている。今後も教職員をはじめ地域の方に幅広く利用される施設であってほしい。

○3月11日 平成27年度第10回成田市校長会議について

定例の校長会議で、今年度最後の会議ということで、私からは、教職員の指導について、これまで起きた様々な教職員の不祥事事例を資料として配布し、人材育成の観点から何点かお話しさせていただいた。また、今年度の市学力状況調査において、全市的には大きな成果が得られたことを伝え、頑張った職員に対し、ねぎらいの言葉をかけていただくようお願いした。

○3月13日 千葉県聴覚障害者協会創立70周年記念大会兼第35回耳の日まつりについて

成田国際文化会館で、千葉県聴覚障害者協会創立70年を記念する、第35回耳の日まつりが開催された。私は開会行事だけ参加した。聴覚障害者の大会ということで、役員の方の挨拶は手話。その手話を見て手話通訳者が言葉で通訳するという、私たちが通常経験する場面と全く逆の立場に立つことになった。逆の立場に立って感じたことは、通訳されなければ、何を伝えたいのか、表情や身振り手振りを見て判断するしかなく、思いを感じ取ることはできない。逆に考えれば、聴覚に障害のある方は、日常、この場にいる自分と全く同じ状態に置かれているのだということだ。2011年に障害者基本法が改正され、その中で「手話は言語に含まれる」とされた。また、2014年、我が国が国連障害者権利条約に批准したことで「手話は言語」ということの実効性のある条例の制定を目指す動きが全国で起きていると、協会の方たちはおっしゃっていたが、まさにこの日の大会を通じて、私自身も「手話は言語」という認識を強くしたところである。

○3月14日 2015成田POPラン大会第3回実行委員会について

今年度実施したPOPラン大会の事業報告並びに収支決算について審議した。今回は残念な

がら朝から雨の空模様。参加された方も大変だったが、大会役員など運営に携わっていただいた方々も大変だったと思う。今回は5,191人の参加申し込みがあり、87.4%にあたる4,535人が受付を済ませ、実際に完走された方はそのうちの92.5%で4,194人だったということだ。申込者数からおよそ1,000人減の完走者ということになる。北は札幌市、南は佐賀県鹿島市、最高齢者は男性が86歳、女性が76歳ということだ。悪条件でもこれだけの方が参加されるということに、大会の意義を感じるどころである。なお、次年度は現段階で11月13日の日曜日を予定している。

#### ○3月15日 平成27年度成田スポーツフェスティバル第2回実行委員会について

今年度の大会事業報告並びに収支決算、次年度の開催要項案について審議した。この中で、委員から、大会のゲストに関し次回からは考え直すべきとの意見が出された。大会の予算の25%ほどを占める費用が本当に必要な経費かということと、大会の進行に関して課題があるとの指摘があった。この問題については、運営委員会で協議していくことになった。

#### ○3月16日 千葉県立富里特別支援学校卒業証書授与式について

昨年に引き続き、富里特別支援学校の卒業式に参加した。小学部、中学部そして高等部の合同卒業式である。校長先生から証書を受け取る子ども達の真剣さと、高等部を卒業し社会人としての第一歩を踏み出す生徒が大粒の涙をこらえきれずにいる姿が印象的だった。

富里特別支援学校は、1年後に栄町に新たに開校する特別支援学校に分離する。成田市の児童生徒の大部分は栄町の方に通学することが既に決まっている。子ども達がこの分離をどう受け止めてくれるのか、特別支援学校の先生方もこのことを考えながら指導にあたってくれるものと思うが、スムーズに進行することを願っている。

#### ○3月18日～22日 第34回全国高等学校女子ソフトボール選抜大会について

高等学校の女子ソフトボール全国大会は、夏のインターハイと、この選抜大会である。インターハイは3年生まで出場でき、まさにその年の高校日本一を決める大会だが、選抜大会は、1、2年生の大会で、夏の大会を占う大事な大会でもある。その大会が成田市を会場として行われた。決勝は地元千葉県の千葉経済大付属高校と、愛知県代表の星城高校との戦いになり、千葉経済大付属高校が2対0で接戦をものにし、初優勝を遂げた。女子ソフトボールの日本代表は、まさに世界のトップレベル。高校生の大会もなかなかレベルの高い素晴らしいゲームが展開された。この選手の中から、2年後に成田市をはじめ千葉県で開催される世界女子ソフトボール大会や、その後の東京オリンピックに出場できる選手が生まれることを期待したい。

#### ○3月23日 第35回成田市産業まつり実行委員会（第2回）について

昨年行われた第35回産業まつりの収支報告並びに改善点について協議した。次年度は11

月19日(土)と翌日の11月20日(日)の開催を予定しているとのこと。チラシも新聞折り込みはやめて、区長回覧で個別に一部ずつ配布するような方法を取るとのこと。委員からは、産業まつりのポスターについて、もっと産業まつりを意識させるようなポスターにすべきだ。行ってみたいという気持ちにさせるようなポスターにしてほしい。これまでのポスターは何かの展覧会のようなポスターだ。という、厳しい意見も出された。来年度は是非改善を図ってほしい。

#### 《教育長報告に対する主な質疑》

委員：3月15日の西中学校、3月17日の八生小学校の卒業式に出席した。西中学校のように卒業生が多い学校ではどのように卒業証書を渡すのかと思って見ていたが、すべてが円滑にきちんとして落ち着いて立派な卒業式であった。八生小学校は、これまで学校訪問でも行く機会がなかったが、地域全体で学校を見ていただいている印象で、子どもたちも純朴で好感が持てる態度で式に臨んでいた。これまでに伺った学校では市長からのメッセージを最初に披露していたが、八生小学校ではPTA会長のあいさつの後の披露であった。個人的には、このように出席している方のあいさつを先にした方がいいのではないかと感じた。

ふれあいルーム修了の会は2回目の出席であったが、やはり感動的だった。出席者はあの場にいれば当然拍手をしたくなると思うが、儀式の中で拍手をしていいものかどうか迷い、他の先生が拍手したので途中から拍手をした。事前に控室でそういったことについても話があれば、最初の子どもから遠慮なく拍手することができる。また、ふれあいルームの修了の式にも是非、市長からのメッセージをいただけないものか。

スポーツフェスティバルのゲストの件についての話があったが同感である。スポーツフェスティバルをもう少し真剣な競技の場として捉える必要を感じる。

委員：玉造中学校と大須賀小学校の卒業式に出席した。玉造中学校はインフルエンザ予防のために全校での予行練習をしなかったそうだが、大変立派な卒業式であった。

大須賀小学校は、卒業生12人の小規模校ならではのきずなを感じる感動的な卒業式であった。ひとつだけマイクの調子が悪かったのは残念だった。

ふれあいルーム修了の会では毎年思うが、一人ひとりへのメッセージに大変愛情を感じることができ、あのように愛情を受けて育った子どもたちが人を愛せる人に育って欲しいと願う。

また、スポーツフェスティバルの件は、ゲストにかかる費用がそのようにかさむのであれば、その分賞品の質を上げたり、あるいはゲストはスポーツフェスティバルらしくスポーツ選手やオリンピックの代表選手等にしたらいかがか。

なお、成田市産業まつり実行委員会におけるポスターについての意見の話があったが、個人的には芸術性のあるいいポスターだと思う。

関川教育長：いろいろな意見があると思う。成田市産業まつり実行委員会での委員の意見は、産業まつりのイメージが湧きにくいというもので、非常にいい写真で美術展や絵画展のポスターのようだというものであった。

委員：3月16日のふれあいルーム修了の会では、指導員の言葉もよかったが、卒業生がそれぞれ自分のことを客観的に捉えられている言葉や、これからのことを考えての言葉にとっても感動した。いくつか思ったことがあるが、体育館活動があるにもかかわらず、センターには体育館がない。また、式では音楽をCDで流していたが、できればピアノを置けないか。このような設備を整えてあげたいと感じた。

3月17日は、平成小学校の卒業式に出席したが、卒業証書を渡す時にバインダーを使っていなかった。学校毎の対応でいいとは思いますが、加良部小学校ではバインダーに卒業証書を挟んで渡しており、受け取った生徒はそれをたたんで退場するというように、その方がスマートだと感じた。

なお、加良部小学校では、インフルエンザが流行っており、1組では8名が欠席し、また子どもたちの言葉の掛け合いの最中に卒業生が10名ほど倒れ、先生方が介抱に走り回る等、体調が悪いなかでの卒業式となってしまう気の毒に感じた。

また、加良部小学校では皆勤賞を出していたが、これから小中一貫教育校、義務教育学校等になっていくところといった賞や、式の姿も変わっていくのかと思いながら見ている。

委員：はじめて大栄中の卒業式に出席した。生徒たちは一生懸命頑張っており、落ち着いたいい卒業式であった。在校生、卒業生の姿を見て、大栄中学校も安泰だという感想を持った。また、3月16日には大栄幼稚園の卒園式に出席した。幼稚園の卒園式は初めてであったが、数年前に自由保育が流行っていた頃の小学校の入学式では、落ち着かずに席に座ってられない子どもたちが多数いたものだが、その頃の状況とは隔

世の感があり、どの子どももしっかりとしており、素晴らしい卒園式であった。あのようによく指導していただければ、小学校へ行っても落ち着いた学校生活ができるのではないかと期待を持った。3月17日には地元の公津小学校の卒業式に出席した。卒業生はわずか26名だが、綱引き大会では3連覇するという素晴らしい結果を残したことを校長先生は式辞のなかで述べており、私も称えさせていただいた。最近の子どもたちはあまり涙を流す機会がないと思うが、多くの子どもたちが涙を流し、公津小学校を巣立っていくことを、本当に惜しんでいるような素晴らしい卒業式であった。

ふれあいルーム修了の会にも出席したが、やはり途中から拍手をするのはどうかと思っていた。会のメインとなるところなので、来賓の方々は拍手してあげたいという気持ちになる。普通、卒業式では拍手はしないが、はじめから聞いていれば遠慮することなく、心から拍手をしてあげることができるので、対応をはっきりと統一していただきたいと思う。

対応については、教育指導課長いかがか。

大竹教育指導課長：拍手の扱いについては、統一的な考え方を出していなかったのも申し訳なかったと考えている。儀式に拍手はどうかという考え方もあるが、子どもたちに関わってきた方々にとっては心から祝福したいという気持ちもあると思う。次年度は、儀式であっても祝福の気持ちを表していただけるように事前に統一できるようにしたい。

委員：是非お願いしたい。それからわかる範囲でいいが、ふれあいルームを修了して、進学した子どもたちのその後の状況については把握しているか。

大竹教育指導課長：修了の会には毎年何人かの卒業生が来ているので、そうした子どもたちについては、指導員が話を聞いたりしているが、その他の生徒に対して進学後卒業したかどうかについてのデータは持っていない。多くの生徒はサポート校に進学していくが、5日間コースを選択した生徒は続くようだが、1日コースのように毎日通学しない場合は最後まで続けるのは難しいようである。なお、公立高校に進学した子どもたちは、事前の準備ができていたので続いているケースが多い。

委員：できる範囲でいいので是非追跡調査をしていただきたいと思う。そしてどのように

変わっていくかを見極めることが、指導に活かせるのではないかと思う。いろいろとやっていただいているとは思いますが、先々を見て子どもたちが自立できるような指導をお願いしたい。

### 3. 議 事

(議案第1号から第5号及び議案第9号から第11号は成田市教育委員会会議規則により非公開とする議決)

<これより非公開>

議案第1号「学校適応専門指導員の任命について」

《審議結果》

承 認

議案第2号「英語指導助手の委嘱について」

《審議結果》

承 認

議案第3号「成田市健康管理医の委嘱について」

《審議結果》

承 認

議案第4号「成田市スポーツ推進委員の委嘱について」

《審議結果》

承 認

議案第5号「成田市社会教育指導員の任命について」

《審議結果》

承 認

議案第6号「成田市地区運動施設の設置及び管理に関する条例の一部改正について」

《審議結果》

可 決

議案第9号「学校薬剤師の委嘱について」

《審議結果》

承 認

議案第10号「成田市教育委員会職員の人事異動について」

《審議結果》

承 認

第11号「学校職員の人事に関する内申について」

《審議結果》

承 認

<非公開を解く>

議案第7号「成田市学校教育振興基本計画について」

## 【鬼澤教育総務課長 資料に基づき説明】

(要旨)

本計画につきましては、昨年10月の教育委員会会議定例会において、素案について報告したが、本日最終版として取りまとめたので議案として提案をさせていただきます。

10月定例会後、12月議会や2月の外部有識者を含めた策定委員会などにおいて、意見をいただき若干修正した点があるので、本日追加説明させていただきます。内容や計画の方向性について大きな変更はなく、2点ほど修正追加したので説明したい。まず、計画名にサブテーマをつけ、インパクトを持たせたらどうかとのご意見をいただいた。表紙をご覧いただきたいが、正式名称である「成田市学校教育振興基本計画」の下に、「輝くみらいNARITA教育プラン」というサブテーマを追加した。これは、本計画の上位計画である、成田市総合計画が「NARITAみらいプラン」としていることから、整合性を持たせ、また、「成田」もアルファベット表記にすることにより、国際性を表すようにした。

次に、数値目標に30年度を追加した。以前は、32年度と37年度のみであったが、昨今の変化の激しい環境の中、もっと中期的な目標値を設けた方がよいのではとの意見を受けて追加した。本計画は、本市の学校教育の現状と課題を踏まえ、今後10年間、本市が目指す学校教育の在り方について基本的な方向性を示すものであり、平成26年度より2か年をかけ、有識者による策定委員会や庁内策定委員会、作業部会からご意見を伺うとともに、児童生徒、保護者、教職員を対象としたアンケート調査や各中学校区で開催したワークショップ等において、様々な視点から意見を伺いながら進めてきた。

今後は、本計画により学校教育に関する諸施策を推進してまいりたい。また、本計画は概要版もあわせて発行し、市内各公共施設の窓口において配布したい。

### 《議案第7号に関する主な質疑》

委員：サブテーマの「輝くみらいNARITA教育プラン」について、みらいをひらがなにしたのはどのような意味か。個人的には漢字表記の方がしっくりくる。

鬼澤教育総務課長：上位計画となる総合計画が「NARITAみらいプラン」としていることによる。

委員：「輝くみらいNARITA教育プラン」のNARITAの上のふりがなは不要ではないか。

鬼澤教育総務課長：低学年の児童等が見ることも意識したもの。

委員：みらいのひらがな表記はいいが、NARITAのふりがなはいらないような気がする。また、37ページの数値目標において「児童一人あたりの年間図書貸出冊数」が計画指標としてあげられているが、ここの国や県の平均を加えたら目安としていいのではないか。

関川教育長：主な内容についてはこれまでに審議していただき、了解いただいているので、これを変えるのは困難である。今回はその後に計画策定委員会等においてご意見をいただき付加したり、改善したりした部分を提案させていただいているので、その部分についてご意見をいただきたい。

伊藤教育総務部長：サブテーマのNARITAのふりがなの件だが、教育委員会で発行している「なりたの教育」という冊子がある。こうしたものとの整合性も考慮した。

委員：「輝く未来」を漢字にして「NARITA」ではなく「なりた」ではどうか。

関川教育長：いろいろな考え方があるが、説明のとおり、上位計画である「NARITAみらいプラン」という市の総合計画があり、これに沿ったかたちでこの計画がある。したがって、なるべく統一した表記をしたいという思いが込められていることをご理解い

ただきたい。

なお、中期的な目標値を設けたことは大きな改善点である。間隔を短くして確認していく必要があるということ、計画策定委員会委員からご指摘いただいたものだが、大事なことだと考えている。

#### 《審議結果》

可 決

議案第8号「附属設備を追加することに伴う成田市文化芸術センターの設置及び管理に関する条例施行規則の一部改正について」

#### 【秋山生涯学習課長 資料に基づき説明】

(要旨)

成田市文化芸術センターは昨年7月の開館以来、本市の文化振興の発信拠点として市内外の皆様に活用いただいていた。開館に際しては必要と考えられる備品を用意し、利用に供してきたが、運営を行う中で更なる備品の整備が必要であると判断し、照明設備、音響設備を追加したので、規則の一部を改正し、運用に供しようとするもの。追加する附属設備については、使用者からの要望が多いことから、追加することで更なる利用率の増加につながるものと考えている。ミニブルート等については、舞台上の演出効果を高めるための照明用の備品であり、吊マイク装置についても同様に演出効果を高める音響設備である。なお、貸出時の利用料金につきましては、文化会館や公民館とのバランスを考慮して設定した。

#### 《議案第8号に関する主な質疑》

委員：施設使用者の要望があって導入したのか。

秋山生涯学習課長：こういう備品が必要だという要望を受けている。

委員：今後も要望があれば、備品についてはその都度追加するのか。

秋山生涯学習課長：大きな備品については概ね整備できたと思うが、必要に応じて追加していくことはある。

#### 《審議結果》

可 決

#### (2) 報告事項

報告第1号「成田市子どもセンターの廃止について」

#### 【秋山生涯学習課長 資料に基づき報告】

(要旨)

成田市子どもセンターは、学校週休二日制に対応するため、平成11年度から、国の緊急対策として設置されたものである。3年間の制度終了後の平成14年度からは、市民ボランティアで組織する「成田市子どもセンター協議会」の運営により、体験活動あるいは、情報紙「なりきち」によるイベント情報の発信などを行ってきた。

しかしながら、近年では子ども向け体験イベントが、様々な施設や場所で盛んに行われており、また、インターネットや地域の情報誌などにより必要な情報も簡単に収集できるようになった。このようなことから、子どもセンターのこれまで担ってきた機能は十分に果たされているものと判断し、廃止することとした。今後は、生涯学習情報誌「いきいきNARITA」、インターネット上の「まなび&ボランティアサイト」、「なりた子育て応援サイト」などにより、各種のイベントの参加を呼びかけてまいりたい。

#### 《報告第1号に関する主な質疑》

委員：参加者が少なくなったから廃止するのではなく、その他のサイト等の案内で足りる

ということか。

秋山生涯学習課長：子どもセンターでは小規模なイベントを年に数回しか行っていなかった。

各地域の青少年健全育成協議会の体験事業等、様々な事業がある。「なりきち」に掲載しているものの多くは、インターネット等で検索した情報をまとめているもので、あらためてこの情報紙を発行する意義も薄れてきたのではないかと考えている。

関川教育長：17年間続いたものをやめていくことについては、いろいろと意見があると思うが、事業を整理していく上では大変なことであり、今回こうして提案できたというのは、整理ができたということだと思う。

委員：子ども館の施設自体は継続するのか。

秋山生涯学習課長：子ども館は、健康こども部子育て支援課の所管する施設で、小学生から高校生くらいまでを対象とした事業を行っている。子どもセンターは子ども館の一部を使用していたものである。

委員：西中学校で日曜日の部活動がなくなって、中学生が集うのはショッピングセンターのフードコートのような場所になってしまうということを保護者の方が話しているのを聞いて、中学生が集えるような場所があればいいと思っていたが、子ども館には中学生も行っているか。

秋山生涯学習課長：詳細は把握していないが、子ども館でも中学生、高校生向けの事業があり、通っている中学生もいる。

報告第2号「成田市大栄地域福祉センター跡の文化財倉庫としての利用について」

【秋山生涯学習課長 資料に基づき報告】

(要旨)

成田市大栄地域福祉センターについては、これまで大栄地域の福祉拠点として利用されてきたが、本年3月31日を持って閉じることになり、建物跡を文化財倉庫として活用していくことになった。配付した資料は4月1日付けで大栄地区に回覧するお知らせ文書になる。

《報告第2号に関する主な質疑》

委員：大栄町時代に社会福祉協議会の事務局が置かれていた施設だが、合併後は利用されずにきたところ、この度活用の用途が決まったということで地元住民としてもありがたいと思う。

報告第3号「成田市健康ちば推進員連絡協議会の解散について」

【大矢生涯スポーツ課長 資料に基づき報告】

(要旨)

平成8年にスポーツ推進委員と地区保健推進員が構成員となり、「市民の健康づくり体力づくりを家族ぐるみ、地域ぐるみ等で実践し普及促進する」ことを目的とする成田市健康ちば推進員連絡協議会が設置された。本協議会は、平成14年に千葉県における健康づくり運動「健康ちば21」の策定により、協議会の運営等は県から各市町村に委ねられることとなり、本協議会の運営、事業展開について検討してきた。今月22日に開催された総会において、スポーツ推進委員及び地区保健推進員については各分野で活動していただくこととし、発展的解消となったことを報告する。

なお、同協議会主催事業である「成人高齢者・体力運動能力調査」、「関東デイ・ウォーキング」についてはスポーツ推進委員連絡協議会が事業を引き継ぎ、市民の健康体力づくり事業を推進していく。

《報告第3号に関する主な質疑》

委員：主催事業である「成人高齢者・体力運動能力調査」、「関東デイ・ウォーキング」についてはスポーツ推進委員連絡協議会が引き継ぐということだが、特に問題はないか。

大矢生涯スポーツ課長：健康ちば推進員連絡協議会はスポーツフェスティバルやPOPラン大会の運営にも協力いただいていたが、スポーツ推進委員の方々に担っていただいていた部分が多く実質的な問題はない。

今後、市民の健康体力づくりはスポーツ推進委員が、健康増進分野は地区保健推進員がそれぞれ担っていくという話し合いの結果から、発展的解消をすることになった。

委員：先ほどの子どもセンターの廃止もそうだが、事業を整理しながら発展的解消を行っていくというのはいいことだと思う。

### (3) その他

大矢生涯スポーツ課長：成田市出身の田中智美選手が先日開催された名古屋ウィメンズマラソンで日本人トップの成績を上げ、リオデジャネイロ・オリンピックの女子マラソン日本代表に選出されたので報告する。市としても、これをお祝いするため、市庁舎、JR成田駅西口のデッキ、出身校の成田小学校、成田中学校に懸垂幕、横断幕を設置した。

なお、オリンピックの女子マラソンは、現地時間8月14日の午前9時30分スタートの予定となっており、日本時間では、同日の午後9時30分となる。

鬼澤教育総務課長：近年子どもたちを取り巻く環境が複雑、多様化しており、様々な困難を抱えたケースが増えている。現在、教育指導課指導主事が福祉や医療、児童相談所、警察などの関係諸機関と連携して対応している。

こうした中、子どもたちの学習や生活を支援するため、関係機関と連携して環境を整える役割を担うスクールソーシャルワーカーの存在が大きな力となっており、千葉県内では教育事務所管内毎に配置され、北総教育事務所管内では三里塚小学校に1名配置されているが手薄な状況と言わざるを得ない状況である。市議会からも、市独自に

スクールソーシャルワーカーを設置してはどうかとして一般質問で取り上げられている。そこで、来年度から指導主事の中からスクールソーシャルワーカーを指名し、これまで以上に充実した対応をしてまいりたい。指名にあたっては、現在の指導主事に併任させることも考えられるが、スクールソーシャルワーカーが正式な職として位置づけられていないことから、任用行為ではなく、教育指導課の事務分掌において職務を位置付け対応してまいりたい。

来年度から教育指導課長の指揮監督の下、成田市教育委員会行政組織規則に定める指導主事の所掌事務の範囲内においてスクールソーシャルワーカーの職務を位置付け、事務分担を決めてまいりたいと考えているので、ご承知おき願いたい。

#### 4. 教育長閉会宣言